

子どもの環境

教

師が教師をいじめるという前代未聞の事件が報道され、驚愕しています。そのいじめの心理と手法は、教師という立場にある者の仕業かと思うような稚拙で、未成熟そして非道な行為です。強い憤りを感じます。いじめた教員達は即刻教職を辞めるべきでしょう。

しかし、この人達は厳正な採用試験に合格して教職に就いたはずで、如何なる方々が何を基準として彼等を選考したのでしょうか。その責任も当然ながら問われるでしょう。

教員の採用試験で思うことがありました。管理職をしていた時分、多くの臨時講師の先生方と出会いました。彼等は正教諭を目指して、一生懸命教育に取り組んでくれていました。その中で、この人ならば将来きつと良き教師になってくれるだろうと思う若者が何人もいました。彼等の中から正教諭になっていった人もいましたが、毎年、不採用となる人もいました。その不合格者の中に、これぞと思える臨時講師の先生が何人もいます。筆記試験が関門なのかも知れませんが、何時も、あの若者を採用しないなんて何と勿体ないと思うのでした。筆記試験を主として採用の可否を線引きするのは、果たして平等で適切な選抜方法なのでしょうか。難しいところです。

赤

十字に七原則と言ふものがあります。その七つの諸原則の一つが「公平」です。青少年赤十字の指導者として、私が敬愛して止ま

なかった先生から、この「公平」の意味を教えて貰いました。「此処に一個の林檎があるとしましょう。そして、ここに4人の人がいます。この林檎を正確に四分の一に割って4人に配ることは、傍目には平等で文句の付けようがないと思われるでしょう。しかし、一人一人の子どもの状態を見ると、一人は、たった今ご飯をお腹いっぱい食べ、他の2人は朝から何も食べずに昼を迎え、最後の一人は昨夜か

ら何も口にしていないのです。そんな彼等に均等に分けた四分の一のりんごを一切れずつ分け与えることが、果たして理に適っているのでしょうか。それこそ悪平等ではないでしょうか。公平な分配とは、本当に必要な人に行き渡ることを言います」と教えられました。

事

故や災害時の医療救護に、トリアージと言う対応が求められています。トリアージとは、混乱時に於ける治療の優先順位を表す言葉です。このトリアージの考え方そのものが七原則の一つである「公平」を具現化したものだと思います。しかし、このトリアージには、しっかりとした知識と見識そして見極めが必要です。

翻

つて見れば、教員を採用する時にも、筆記試験の点数だけでなく、その人が教員に向いているかどうか、しっかりと見極めが大切です。臨時講師の方々を年間通じて見てきた現場の人達の意見も大切な要素となり得ると強く思います。子ども達の心の環境は、正に教師の態度によって作られます。教師達の一寸した空気感が、子ども達に敏感に伝わって行きます。

同

様に社会全般でも同じ事が言えます。周りの大人達が良としたものが良で、ダメとしたものがダメと子どもの中の心に植え付けられていきます。その意味で教師自体の存在が、子どもの心の環境の大きなファクターとなるでしょう。

教

員採用から子どもの環境作りが始まっているのです。しかし、それ以上に最も身近で濃密な関係の「親」こそが、子ども達の環境であるでしょう。それを忘れて、物質的な環境だけを議論してはいけないと思うのです。

(元青森県立北斗高校校長)